

第7回 中泊町少年の主張大会

8月27日(火)に総合文化センター「パルナス」で開催されました。ここではその発表の一部を紹介します。



スポーツで町を元気に

中里小学校6年 加藤 心春

私は、中里ジュニアクラブで陸上をしている。始めたきっかけは、年長るとき、80メートル走で1位になったこと。町出身で五輪にも出た井沼清七さんの功績は、力になっている。スポーツの力でこの町をもっと元気で明るい町にしていきたいために、自分できることを考えた。それは、町の施設や用具などを大事に使うことだ。みんなが気持ちよく使うことができるように、感謝の気持ちを持って使い、一人一人のがんばりを一つにして、町を元気にしていきたい。



言葉の使い方

武田小学校6年 白川 絢理

「言葉」を何のために使うのか？伝えるため？分かち合うため？勇気づけるため？「幸せ」という漢字から、たった一画引くだけで「辛(つらい)」という漢字になる。言葉は相手の立場を考えて使わなければならない。今、使おうとしている言葉の使い方は正しいのか。深く考える意識が大切。言葉の使い方を間違えている人がいたら止めて欲しい。仲の良い人なら、なおさら勇気を持って。正しい使い方をしている人がいたら認めて欲しい。



助け合うということ

薄市小学校6年 新岡 萌愛

【手話：私の名前は、薄市小学校六年 新岡萌愛】道徳の勉強中、いろんなことを考えるようになった。日本は、災害が多いところだ。私の家族は、全員耳が聞こえない。近所の人たちは優しいので助けてくれると思っている。友達が電車で席を譲っているのを見て、気持ちが良くなった。私には、まだそんな勇気がない。でも友だちのように、優しくなれるように努力したい。助け合う町をつくる努力で、中泊町がどんどん住みやすく、助け合う町になると思う。



あきらめない心

小泊小学校6年 佐藤 龍翔

あきらめないで頑張れば、何でもできる。卓球から学んだことだ。初めての試合で、プレッシャーで前日から、「やりたくない」「試合をしたくない」と思っていると、自分の力を出せずに試合が終わった。「勝ちたい」と思って練習を続けると、勝つことができた。練習を頑張ると勝てると思った。卓球から学んだことは、学校生活にも役立っている。これからも、決してあきらめずに粘り強く挑戦し、様々な壁を乗り越えていきたい。



ステキなクラスの作り方

中里中学校1年 奈良 実莉

入学前、仲良く楽しく過ごせるか不安や緊張があったが、今はそんな気持ちはどこかに行った。運動会で苦手種目なのに立候補してくれた人がいた。完走すると1点が入るが、誰も立候補しない中だった。競争が始まると、抜かれても自分のペースで走っていた。みんなで一生懸命応援して、最後はみんなでゴールした。みんなで喜んだ。気持ちが一つになった瞬間だった。素敵なクラスは、みんなで努力し、よく話し合い、楽しむことで作ることができる。



子供の命をどう考えるか？

小泊中学校1年 太田 颯真

「子供の命」をどう思うか。「令和」が始まる直前、希望を抱いていたが、千葉県野田市で小学四年生が虐待死した事件の報道を見て怒りを覚えた。私たちにできることは何か。地域につながりを作り、それを大きくしていくことが重要だ。現代社会は、情報は満ち溢れているが、人との関係は薄く「孤独の時代」と言える。地域活動に参加し、お互いや地域のことを知ることが大切だ。子供が安心して暮らせる日常をつくるのが最大のプレゼントだと思う。



野球のすばらしさ

中里中学校2年 白川 柊真

僕が野球を始めたのは、小学校三年。野球中継と父とのキャッチボールで興味が湧いたからだ。野球は見て楽しく、プレーしてもおもしろい。野球から学んだことは、礼儀の大切さ、物を大切にすること、チームワークの3つだ。将来に向けて大事なことを、野球を通して学んでいる。今の野球部は9人でギリギリ。野球から学ぶことはたくさんある。小学生の皆さん、野球を始めませんか。僕達と一緒に野球をやりませんか。



わの村の良いところ

小泊中学校2年 鍋田 亜衣海

「気をつけてね。いってらっしゃい」と家族のように声をかけるのは、小泊のおじいちゃん、おばあちゃん。道を歩いていると言葉を掛けてくれて、お互い笑顔になる。小泊はまるで、一つの大きな家族のような村だ。まいね事したら、きちんと怒る。良い事したら、たんげ褒める。小泊は人を成長させる力のある村だ。自然豊かなところも小泊の良いところだ。保育園から中学校まで友達と十年以上一緒に過ごすこともできる。私は小泊が大好きだ。

中高生が夢を追う先輩と交流

大学生とカタルノキャリアサポート形成事業

中里高校で9月6日(金)、夢に向かって行動できる人材育成を目的に、中里高校(校長・大瀬雅生)の生徒たちが、大学生とのワークショップ「キャリアサポート」に臨みました。

この事業では、生徒たちが思う自分の将来の夢、日常生活や学校生活で感じていることを話し合い、悩みなどを解決する糸口を探りました。3部構成で行われ、第1部ではレクリエーションで自分の姿を見つめ直し、続く第2部で、大学生が受験や学生生活で感じたこと、高校生活の振り返りなどの「語り」を聞きました。第3部では、生徒たちが自分になりたい姿を掘り下げて、今できることを宣言するように発表しました。

生徒たちは「いろいろな話を聞けた」、「楽しく話すことができた」と大学生との交流を楽しんでいたようでした。



大学生と語る様子



退場はハイタッチで

さらなる活躍を願って

宝富士激励会が開かれる

大相撲の幕内で活躍を続ける宝富士関の激励会が、9月24日(火)に総合文化センターパルナスにおいて開催されました。

激励会には宝富士関と妻の英莉乃さん、長男慶丞くん(11か月)が出席し、冒頭に、同会実行委員長の濱館町長が「今日は宝富士関の結婚のお祝いと、先の秋場所の結果をたたえるお言葉を掛けていただきたい」と激励しました。宝富士関からは「盛大に開催していただきありがとうございます。皆さんの声援のおかげで9番勝つことができました。まだまだ若い者に負けないようこれからも頑張る」とあいさつがありました。

この激励会には、町民ら約300人が出席し、宝富士関と英莉乃さんが会場を回ると、記念撮影や握手をしていました。



花束贈呈した中泊道場のみなさんと記念撮影



結婚式で歌った歌を披露